

□ (評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 2点×4≒8点

(解答) a―ハ b―イ c―ニ d―ト

問二 5点

(解答) 二

問三 5点

(解答) 口

問四 3点×2≒6点

(解答) Y≒姉の行方 Z≒七度まいり

問五 3点×3≒9点

(解答例)

- ・自分たちがふた子の姉妹である〔こと〕
- ・二人のうち自分が捨て子にされた〔こと〕
- ・二人の両親は既にこの世にいない〔こと〕

■各加点要素の加点の条件

○ふた子であること／捨て子にされたこと／両親はいないこと、以上3点に少しでも触れていればそれぞれ得点。

(解答例)

A○2点

B○1点

C○1点

D○1点

E○3点

自分と千重子は現実には身分ちがいであり、千重子の家庭とすれば、村の娘と千重子がふたごで
あり、千重子の方が捨て子であることを 明らかにされたくないだろうと思った。 (79字)
(8点)

■各加点要素の加点の条件

A 「自分と千重子は現実には身分ちがいであり」 (2点)

○ 「自分 (苗子) と千恵子の身分が違うこと」 が示されていればよい。

B 「千重子の家庭とすれば」 (1点)

○ 家庭との関連に触れていればよい。

C 「村の娘と千重子がふたごであり」 (1点)

○ 村の娘 (苗子) と千恵子が、「ふたご」であることが解答全体からわかればよい。

D 「千重子の方が捨て子であることを」 (1点)

E 「明らかにされたくないだろうと思った」 (3点)

○ 「姉の幸せの妨げになりたくない」「姉に自分のことで迷惑をかけたくない」「(ふた子であることが) 露見することによって千重子に迷惑をかけまい」などで可○。

問七 5点

(解答) 二

問八 2点×2＝4点

(解答) 口・ホ

□ (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 2点×4＝8点

(解答) 1 施行 2 貨幣 3 促 4 変遷

問二 3点

(解答) 二

問三 6点

(模範解答例)

A○2点

B○2点

C○2点

家庭の安定が 国の安定につながるとする 家族絶対主義に基づく言説。(30字)

■ 字数：三十字以内 十四字以下のものは全体不可 (0点)

■ 加点要素の加点の条件

A 「家庭の安定が」 (2点)

※ 家族と国家の関係性のうち、家族のあり方について説明していないものは ✕。要素A 加点なし。

B 「国の安定につながる」とする (2点)

※ 家族と国家の関係性のうち、国家の安定ということについて説明していないものは要素B 加点なし

C 「家族絶対主義の言説」 (2点)

※ 要素A・Bは、家族絶対主義に基づいた言説であるということについて説明していないものは要素C 加点なし

① 「家族絶対主義」で1点、② 「言説」「意見」などで1点とする。

(模範解答例)

A〇2点

B〇2点

C〇2点

家庭的な温かい雰囲気~~で、~~外で働いて疲労した父親の力を回復させる~~。~~家族がもつ機能。(39字)(6点)

■字数：四十字以内 **十九字以下のものは全体不可(0点)**

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照/理由説明の結び「**くから**」**になっている場合は、要素C不可。**
- ・句点の扱い…▲1点減点

■各加点要素の加点の条件

A「家庭的な温かい雰囲気で」(2点)

※本文最終段落にある、「家庭的な温かい雰囲気」ということについて説明していないものは要素A加点なし。

B「外で働いて疲労した父親の力を回復させる」(2点)

※本文最終段落にある、「父親の力を回復させる」ということについて説明していないものは要素B加点なし。

C「家族がもつ機能」(2点)

※要素A・Bは「家族がもっている機能」であることを説明していないものは要素C加点なし

問五 6点

(模範解答例)

A ○2点

B ○2点

C ○2点

人類の生命の維持や

存続に

欠かすことのできない行為。

(25字)

(6点)

■字数：二十五字以内

十二字以下のものは全体不可(0点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照/理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素C不可。
- ・句点の扱い…▲1点減点

■各加点要素の加点の条件

A 「人類の生命の維持や」(2点)

※ 「空気」「寝る場所」「火」が人間の生存に必要なものであるということを説明していないものは要素A加
点なし

B 「存続に」(2点)

※ 「生殖」が人類の存続に必要なものであるということを説明していないものは要素B加
点なし

C 「欠かすことのできない行為」(2点)

※ 要素A・Bはなくてはならないものであるということの説明していないものは要素C加
点なし。

問六 5点

(解答) 口 (5点)

問七 16点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

C ○2点

近世社会では、配膳式が主流で

家族別々に食べ物が盛られ、

そこに家族以外の成員が入ってくることも

D ○2点

E ○3点

あったが、近代になって、核家族化したサラリーマン階層の家庭で、ちやぶ台に家族全員が集まり

F ○3点

「皿の副食物を食む」という形態に変化したという経緯。

(118字)

(16点)

■字数：百二十字以内

五十九字以下のものは全体不可(0点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素F参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素F不可。
- ・句点の扱い…▲1点減点

■各加点要素の加点の条件

- ※A↷Cは「近世社会」の内容。A↷Cの内容が書かれていても「近代」の内容として書かれている場合✖。加点しない。
- ※A↷Cの内容に「近世社会(前近代)」という明示がなく、「以前は」など曖昧な場合は、Aの要素から2点減点(▲)とする(Aは△1点)。A↷Cから変化してD↷Fになるということが読み取ればB・Cは加点対象とする。

A 「近世社会では、配膳式が主流で」(3点)

- ※近世社会(近代以前)では配膳式であったことを説明していないものは要素A加点なし。

B 「家族別々に食べ物が盛られ」(3点)

- ※近世社会では家族が別々に食べ物が盛られていたということを説明していないものは要素B加点なし。

C 「そこに家族以外の成員が入ってくることもあったが」(2点)

- ※要素A・Bの場合、家族以外の成員も入ることがあるということを説明していないものは要素C加点なし。

※D↷Fは「近代」の内容。D↷Fの内容が書かれていても「近世社会(近代以前)」の内容として書かれている場合✖。加点しない。

※D↷Fの内容が「近代」という明示がない場合、Dの要素とし2点減点(✖)とする。「近世社会から変化」してE・Fになったということが読み取れば、E・Fは加点対象とする。

D 「近代になって、核家族化したサラリーマン階層の家庭で」(2点)

- ※近代の核家族化したサラリーマン階層の家庭についての説明をしていないものは要素D加点なし。

E 「ちゃぶ台に家族全員が集まり」(3点)

- ※要素Eではちゃぶ台に家族全員が集まっていたということを説明していないものは要素E加点なし。

F 「一つの皿の副食物を食べるという形態に変化した」という経緯」(3点)

- ※要素Fは一つの皿の食べ物を家族全員で食べるということを説明していないものは要素F加点なし。

※要素AからFに触れていても誤読と考えられる流れで説明されている場合は加点しない。

(採点例①を参照のこと)

▲要素ごとの内容に不備がある場合は、2点減点(2点配点の箇所は0点)とする。

(採点例②を参照のこと)

三 (古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×3＝3点

(解答) ㉔ どうぐろう ㉕ つぼね

◎ みゆき

■ 表記・字数

- ・ ひらがな・現代仮名遣いでなくてはならない。
- ・ 句読点不要 (不問)。

■ 各加点要素の加点の条件

- ㉔ 「はるのみや」も可○。他は✕。
- ㉕ 正解以外は✕。
- ㉖ 「()」も可。他は✕。

問二 2点×3＝6点

(解答) ① ニ ② イ ③ ハ

問三 1点×2＝2点

(解答) (1) □ (2) ニ

問四 3点×4＝12点

i (3点)

(解答例) すぐに

■ 各加点要素の加点の条件

- ※ 「やがて」の現代語訳
- 「そのまま」でもよい。
- ✕ 「その内に・ゆっくり・静かに・ようやく・徐々に」等は✕。

ii (3点)

(解答例) しばらくして

■各加点要素の加点の条件

- ※「とばかりありて」の現代語訳
- 「しばらく経って・しばらくあって・少し時間が経って」等でもよい。
- ▲右の表現に近いが**時間が経つ**の意が**不明瞭な場合は、▲1点減点**で△2点。

iii (3点)

A ○2点 B ○1点

(解答例) 残念 だろう

■各加点要素の加点の条件

- ※「念なかるべし」の現代語訳

A 「残念」(2点)

- 「残念だ・無念だ・くやしい」等の意があれば【2点】。
- △「おもしろくない・つまらない・不愉快・不満・趣がない」等は【1点】

B 「だろう」(1点)

- 推量の意があればよい。
- 「に違いない・はずだ」等でもよい。

iv (3点)

(解答例) 一晩中

■各加点要素の加点の条件

- ※「夜もすがら」の現代語訳
- 「夜通し・夜通しで・終夜」等でもよい。

問五 5点

(解答例)

A ○2点

B ○2点

C ○1点

「二組に分かれて、 どちらの組が先にその年最初の郭公の声を聞くかを 競い合うこと。」(5点)

■表記・字数

- ・四〇字以内。

- ・「こと」が望ましいが、説明が成立していればそれ以外でもよい。
- ・句読点の有無不問。

■各加点要素の加点の条件

A 「二組に分かれて」(2点)

- 「二組に分かれて・組に分かれて・左右に分かれて」の意が読み取ればよい。
- ▲ 「チーム」等カタカナ語がある場合は一件につき▲1点減点。

B 「どちらの組が先にその年最初の郭公の声を聞くかを」(2点)

- ① 「どちらが先に郭公(ほととぎす)の声を聞くかを」の意があれば【1点】。
- ② 「郭公の声」について「今年(その年)最初の」の意もあれば【+1点】で、【2点】。
- ✖ 「今年(その年)最初の・鳴き始める」の意が明らかでない場合は「初音」とあっても右の【+1点】②は得られない。
- 「どこで・どちらから・どの場所で・右近の馬場と東山のどちらで」等、場所や方角の説明の有無は不問。

C 「競い合うこと」(1点)

- 「競い合う・勝負」等の意があればよい。

問六 6点

(解答例)

A ○1点

郭公の声に似せた笛を下男に吹かせ、その音を聞いて郭公の初音を聞いたことにして、

B ○2点

C ○1点

和歌を詠むことは、かえって不都合なことだろう、ということ。(6点)

■各加点要素の加点の条件

A 「郭公の声に似せた笛を下男に吹かせ」(1点)

- 「郭公の声に似せた笛(作り郭公)」で「の意が読み取ればよい」。

B 「その音を聞いて郭公の初音を聞いたことにして」(2点)

- 解答全体から「偽物の郭公の声(作り郭公)」によって「初音を聞いたことにする・人々に初音だと思わせる」先に郭公の声を聞いたと偽る」等の意が読み取ればよい。

C 「和歌を詠むこと」(1点)

- ✖ ※要素A・要素Bがいずれも0点の場合は得点できない。
- 「和歌を詠む」の意が読み取ればよい。

D 「かえって不都合なことだろう、ということ」(2点)

- 「不都合な」は「よくない・まずい・不誠実だ・残念だ・甲斐がない・価値がない」等でもよい。
- 「かえって」は「なまじ・なまじっか」でもよい。
- ✖ 「中途半端だ・なかなか・かなり」等は✖。
- △ この意がない場合は【1点】。
- 推量の意(「だろう・に違いない・はずだ」)の有無は不問。

問七 4点×2＝8点

X (4点)

A○2点

B○2点

(解答例) 郭公の声に似せた 笛を上手に吹く人。

■各加点要素の加点の条件

A 「郭公の声に似せた」(2点)

○ 「作り郭公」とあれば「郭公の声に似せた笛」の意と同意と扱い○。

△ 「声」がない「郭公に似せた・郭公の真似をする」は【1点】。

✕ 「郭公(ほととぎす)」がない場合は✕。

B 「笛を上手に吹く人」(2点)

① 「笛を吹く人」の意があれば【1点】。

② 右の意がある上で「上手に」の意もあれば【2点】。

○ 「人」は「者・役・役目・誰か」等でもよい。

○ 「山に潜ませる・山手世準備する」等の意の有無は不問。

Y (4点)

A○2点

B○2点

(解答例) すでに本物の 郭公が鳴いたこと。

■各加点要素の加点の条件

A 「すでに本物の」(2点)

✕ 要素Bが0点の場合は得点できない。

○ 「すでに・祇園林で」の有無は不問。

B 「郭公が鳴いたこと」(2点)

○ 「郭公の初音を聞いた」の意でもよい。

△ 右の場合、「郭公」がなく「初音を聞いた」となっている場合は【1点】。

問八 6点

(解答) ホ

問九 2点

(解答) ハ

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

- (解答) a ここにおいて b ひとりとなり
c わかき d かつ

「採点のポイント」

△c「わかき」は△1点。

※送り仮名不足0点。

例 a「ここにおい」 b「ひとりとなり」 c「わか」 d「か」

※誤答(例)

- a これにおいて ここにおいて
b ひとりとなり ひとりとなり ひとのため
c わかし わかく すくなき すくなし すくなく
d まさに しばらく

問二 4点×2＝8点

(解答) A＝口 B＝二

問三 7点

(解答) 呉起殺_二其謗_レ己者三十余人_一

「採点のポイント」

※送り仮名やその他(不要な記号や数字)を書いたものは0点。

※返り点の誤り※。完答のみ○。

問四 6点

A○1点 B○2点

C○1点 D○1点 E○1点

(解答例) 私は 大臣にならなければ、二度と 衛には 帰らないつもりだ。(6点)

「採点のポイント」

- A× 「呉起は」とするもの×0点。
B○ 「大臣」は「卿相」のままでも可。「卿や宰相」なども可。
○ 「ならなければ」は、「なれなければ」「ならないかぎり」など条件句になっていることが必要。
C○ 「二度と」は「再び」「もう一度」など可。
○ 「二度と」がなくともEとあわせて「戻る」とは「戻ることではない」とするも可。
E○ 「つもりだ」の有無は不問。
○ 「帰る」は「入る」「足を踏み入れる」など可。

問五 8点

A○2点 B○3点

C○3点

(解答例) 呉起が 母の葬儀に衛に帰らなかったことを 薄情だと考えたから。(8点)

「採点のポイント」

- A○ 「衛に」はなくとも「帰国せず」「帰って来ない」などがあれば可。
C○ 「薄情だ」は「親不孝」だ「不義理だ」「徳に反する」も許容。
▲ 「不孝」の「孝」を「考」と誤記▲減点1点。

問六 2点×5＝10点

(解答) イ＝2 ロ＝2 ハ＝1 ニ＝2 ホ＝1

問七 3点

(解答) ホ